

池上地区まちおこしの会 令和3年度臨時総会 次第

I. 挨拶（会長 吉澤正宣）

II. 議事

1 報告事項

（1）「会のあり方検討」活動報告について【資料1】

2 審議事項

（1）会活動目的の再設定について【資料2】

（2）令和4年度活動計画について【資料3、資料4】

III. 閉会（副会長 宮嶋勝）

会のあり方検討に関する活動報告（概要）

1 あり方検討について

（１）背景

2020年に始まるコロナ禍の影響により、会の事業はほぼ中止となっています。他方、会が2022年7月に設立から20年を迎えようとする今、「これまでの活動を総括し、今後に向けた会のあり方を考えることが必要」との認識から、「会のあり方検討」を2021年度の事業として取り組むこととしました¹。

（２）活動実績

8月～9月は「これまでの棚卸（ステップ1）」、10月～12月は「会の整理・体系化（ステップ2）」、1～3月は「活動の充実（ステップ3）」をテーマとして、議論を進めました。

2 議論の概要

（１）会の活動目的を検討しました

「これまでの棚卸（ステップ1）」での議論を踏まえ、これからの当会は、以下の活動目的を掲げていきたいと考えます。

池上地区まちおこしの会は「池上地区の人たち」と「池上を好きな人たち」が、「人とのつながり」を大切にし、「池上でやりたいこと」を実現することで、池上がいきいきとした魅力あるまちになることを目的に自分たちの力で活動する。

（２）新たな組織設計案を検討しました

これからの活動目的を実現していくため、会の組織設計を改めたく考えています。事務局には「総務・財政・広報」の3担当を置き、会運営の自立化に向けた取り組みを進めていきます。また、新たに設置する連携事業部には「渉外・事業」の2担当を置き、池上内外における「つながりづくり」に取り組みます。

① 事務局	→ 会の運営を担う
② 連携事業部	→ 「池上ファン（内外を問わず）とのつながり」を生み出す
③ 池上まつり運営部	→ 「池上ファン（内外を問わず）とのつながり」を更に大きな輪へ広げる

（３）令和4年度活動計画を検討しました

新たな組織において、以下の活動に取り組んでいきます。

① 事務局	→ 事務局機能の強化に向け、池上特別出張所からの事務処理引継ぎ、現会員・非会員向けにスタッフ獲得の取り組みを行う。
② 連携事業部	→ 「試行的事業（企画勉強会含む）」「三部会事業」の取り組みを行う。
③ 池上まつり運営部	→ 令和5年度池上まつりの開催に向けた、再設計活動を行う。

¹ 本取り組みにかかる費用の一部は（一財）YS市庭コミュニティ財団助成金を活用しました。

会のあり方検討に関する活動報告（詳細）

I 概要

1 背景

2020年に始まる新型コロナウイルス感染症の拡大によって、現在まで会の事業はほぼ中止となっています。他方、会が2022年7月に設立から20年を迎えようとする今、池上を取り巻く現在の状況は、設立当時と比べてさまざまに変化をしています。

こうした背景から、「事業が中止となっている今だからこそ、これまでの活動を総括し、今後に向けた会のあり方を考えることが必要」との課題を会として認識し、「会のあり方検討」を2021年度の事業として取り組むこととしました。

- 会のあり方検討 枠組み -

ステップ1：これまでの棚卸	① 「池上のいま」を知る	概ね2021年9月まで
	② 成果と課題の振り返り	
	③ 活動目的の再検討	
ステップ2：会の整理・体系化	① 部会の見直し・最適化	概ね2021年12月まで
	② 事務局運営力の向上	
	③ 事業と組織の検討	
ステップ3：活動の充実	① 事業のブラッシュアップ	概ね2022年3月まで

2 議論の進め方

会議の実行性を確保するため、以下をあり方検討の基本メンバーとしました。「会全体への関与」という観点からメンバーを指定していますが、議論の内容に応じ、当該メンバー以外も適宜会議へ参加可能としました。また、検討メンバーでは具体の議論を行い、適宜、役員会でその了承を得ながら進めることとしました（2021年7月9日役員会決定）。

- 会のあり方検討メンバー¹ -

会長	吉澤 正宣	会の代表者
副会長	青柳 博之 / 鈴木 重治 / 宮嶋 勝	会の副代表者
事務局長	國廣 孝栄	会事務運営の統括者
会計部会長	永野 宏	会財務の責任者
企画部会長	加部東 広美	会事業の調整・統括者
池上特別出張所	藏方 博史 / 小杉 聡史 / 寺崎 裕量	会事務運営の実務者

- 役員会の様子 -



¹ ファシリテーターとして NPO 法人 CR ファクトリー 豊田有希が参加。なお、費用の一部は(一財)YS 市庭コミュニティ財団助成金を活用。

Ⅱ 活動実績

1 これまでの棚卸（ステップ1）

（1）議論の概要

池上で活動をしている若手の方々と意見交換を行い、「池上のいま」について伺いました。これを踏まえ、会のこれまでの振り返りつつ、これからの池上について会はどのような目的を掲げて活動していくべきか、ワークショップ等を通じた議論を重ね、以下のとおり整理しました。

① 活動のターゲット

「池上が好きな人」がターゲット

- 「“池上のいま”を知る」では、「池上内」のみならず、「池上外」からの多様な人材が、池上への思いや興味を持ち、まちに関わろうとしていることを認識しました。
- 池上の内外を問わず、こうした人々の「池上でやりたい」を実現していくことが、新たなまちの力になっていくと考えます。

② 会が大切にする価値観

「つながり」「コラボレーション」という価値観に共感

- まちが住みやすく・魅力的であるためには、地域の土台となる「人のつながり」が最も大切です。当会は活動を通じて「人のつながりを作り出すこと」に価値を置きます。
- また池上の内外を問わず、さまざまな発想・能力を持つ人々との「コラボレーション」が、更なる活動の楽しみ・充実へとつながると考えます。

③ 活動のポイント

会への多様な人材の関わりを期待

- 活動に際しては、老若男女、多様な方々に参加をして欲しく考えます。そのためには、活動目的に賛同できる人を募るとともに、参加のハードルは低く、「会との接点をつくる仕組み」が必要となります。

（2）ステップ1の成果

「これまでの棚卸（ステップ1）」での議論を踏まえ、これからの当会は、以下の活動目的を掲げていきたいと考えます。

池上地区まちおこしの会は「池上地区の人たち」と「池上を好きな人たち」が、「人とのつながり」を大切にし、「池上でやりたいこと」を実現することで、池上がいきいきとした魅力あるまちになることを目的に自分たちの力で活動する。

- 議論の様子 -



2 会の整理・体系化（ステップ2）

（1）議論の概要

「これまでの棚卸（ステップ1）」では、今後会が目指す目的を定めました。続くこの「会の整理・体系化（ステップ2）」では、その目的を実現していくための組織・事業を検討しました。

① 部会事業の位置づけを検討

事業の性質や地域力推進池上地区委員会の状況を踏まえ、今後の部会事業を議論

- 各部長から、部会活動の実態・課題をヒアリングしました。
- これを踏まえ、他地区における地域力推進地区委員会の活動実態、部会事業の性質に鑑み、環境・防災・防犯部会を地域力池上地区推進委員会の分科会活動に位置づける是非について議論しました。

② 事務局業務と事業活動の整理

会の自立運営に向け、事務局業務などを整理

- 事務局業務の棚卸を行い、会運営の全体像を整理しました。
- また、会活動目的の実現に寄与する事業について議論しました。

③ 組織案の設計

活動目的を実現するべく、新たな組織案を設計

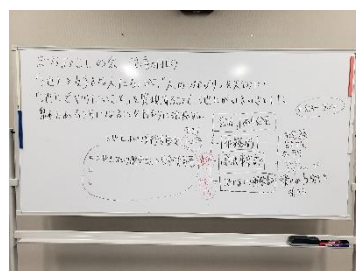
- 棚卸した事務局業務をもとに、必要となる各担当を検討しました。
- また、会活動目的を実現するために連携事業部の設置を検討しました。

（2）ステップ2の成果

これからの活動目的を実現していくため、会の組織設計を改めたく考えます（詳細は p.4 参照）。事務局には「総務・財政・広報」の3担当を置き、会運営の自立化に向けた取り組みを進めていきます。また、新たに設置する連携事業部には「渉外・事業」の2担当を置き、池上内外における「つながりづくり」に取り組みます。

① 事務局	→ 会の運営を担う
② 連携事業部	→ 「池上ファン（内外を問わず）とのつながり」を生み出す
③ 池上まつり運営部	→ 「池上ファン（内外を問わず）とのつながり」を更に大きな輪へ広げる

- 議論の様子 -



- 新たな組織設計（案） -

【活動目的】

池上地区まちおこしの会は「池上地区の人たち」と「池上を好きな人たち」が、「人とのつながり」を大切にし、「池上でやりたいこと」を実現することで、池上がいきいきとした魅力あるまちになることを目的に自分たちの力で活動する。



3 活動の充実（ステップ3）

（1）議論の概要

「これまでの棚卸（ステップ1）」「会の整理・体系化（ステップ2）」を踏まえ、「活動の充実（ステップ3）」では次年度事業に関する検討を行いました。

① 池上まつりの「これまで」と「これから」

成果と課題、これからの目的を議論

- これまでの池上まつりを通じ、以下の成果と課題を認識しました。

成 果 : 地域内のコミュニティづくりに寄与 (ex.11 町会それぞれに知り合いが出来た)

課 題 : 池上会館周辺で一日のみ開催

規模が大きくなり、イベントをこなす色合いが強くなりつつある

企画参加者は口コミの範囲で集まる人が多い

コミュニティを構成する世代に偏り (次世代に対して、いかに人のつながりを繋ぐか)

- これまでの成果と課題、また今の池上で起きている変化を踏まえ、池上まつりの目的を以下のとおり整理しました。

これまで : 地域のコミュニティづくり

→ 池上地区 (11 町会内) のコミュニティが主眼

これから : 地域の外から内へと池上ファンを呼び込み、人のつながりを広げていく

→ 池上の魅力を地域外の人にも + 地域内における次世代の担い手づくり

② つなかりを「生み出す」仕組み

「接点づくり」が重要

- つなかりを生み出すためには、何よりもまず、会の接点となる「入口」が必要と議論しました。
- 接点づくりにおいては、「ハードルは低く」「継続的に実施」していくことが重要であると、併せて議論しました。

持続可能な地域活動を検討

- さまざまな地域活動の先進事例を参照し、with コロナへの対応や企画運営力の向上を検討しました。

（2）ステップ3の成果

来年度の池上まつり運営部・連携事業部については、以下の活動をしたいと考えます。これらの活動を通じて、池上内外における「つながりづくり」を進めていきます。

① 池上まつり運営部

令和5年度池上まつりに向けた再設計活動

- 令和4年度池上まつりを中止とし、令和5年度開催に向けた再設計活動を行います。
- 具体的には、業務の棚卸をしたうえ、前述の課題解決や目的実現に向けた取り組みを進めていきます。

② 連携事業部

試行的事業の実施

- 令和4年度池上まつりを中止とする一方、新たなイベントを試行的に実施します。
- 実施に際しては、「接点づくり」の企画勉強会を継続開催しつつ、以下の基本方針に基づき進めていきます。

-
- ① 考え方 : With コロナ / 非一極集中 / 池上ファンとの連携・交流

 - ② 会場 : 池上地区全体 (11 町会)

 - ③ 日程 : 地域外からの来客を見込める時期 / 複数日

 - ④ 企画内容 : 公募 (まちの中から、やりたいことを出してもらう) + ステージ企画

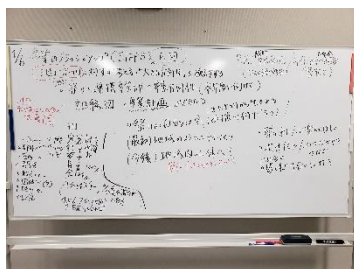
 - ⑤ 会の役割 : プロデューサー (ex.テーマ設定、企画公募、広報、ブランド化)

 - ⑥ 資金 : 企画提案者の独立採算 / 会は広報関係への支出を想定

三部会事業の実施

- 感染症対策の影響がない事業は、継続実施します (ex.青色パトロール、緑づくり)。
- その他、感染症対策を特に要する事業については、実施未定とします (ex.梅まつり、スポゴミ)。

- 議論の様子 -



(3) その他

会のあり方検討の途中経過、これからの活動展望を広く発信するために、郵送やインターネット配信による広報活動を行いました。

① 会のあり方検討活動報告 (会員向け)

- 会のあり方検討に関する議論を広く共有するため、会員向けに活動報告資料を送付しました (2022 年 1 月 13 日付け)。

- 発送作業の様子 -



② トークセッション配信「いけまち談義 ～ 池上のこれまで と これから ～」出演

- 会のあり方検討をきっかけとして、以下のトークイベントに出演しました。
- 当日は会のこれまでの活動紹介、まちで活動するうえでの世代間の視点などについて、幅広く意見交換をしました。

- 概要 -

日 時 : 2022 年 1 月 30 日 (日) 13:30～15:30

会 場 : 日蓮宗本山 大坊本行寺 客殿 牡丹・桔梗の間 (東京都大田区池上二丁目 10 番 5 号)

※ 堤方 4306 YouTube チャンネルにて配信



(<https://youtu.be/zTgrIga6PX0>)

登壇者 : 池上地区まちこしの会 吉澤 勝 宣 (同会 会長)

國 廣 孝 栄 (同会 事務局長)

温 THE TOWN

アベケイスケ (堤方 4306・ノミガワスタジオ)

小 薬 順 法 (株式会社 G.U.style)

ファシリテーター

佐 瀬 優 子 (アトリエ言景)

主 催 : 温 THE TOWN (<https://ottown.tokyo/>)

協 力 : 池上地区まちおこしの会 / 大田区池上特別出張所

- 当日の様子 -



Ⅲ 活動記録（会のあり方検討関係）

段階		日付		内容
開始まで	2021 年	6 月	11 日	役員会：「会のあり方検討」の実施を決定
		7 月	9 日	役員会：検討メンバー、進め方を決定
ステップ 1		8 月	3 日	① - 1：ノミガワスタジオとの意見交換
			11 日	① - 2：SANDO との意見交換
			20 日	役員会：ファシリテーター契約調整など
		9 月	3 日	② - 1：会の「実現・未達」「強み・弱み」などを議論
			17 日	③ - 1：会の「今後ありたい姿」などを議論
			30 日	③ - 2：会の「目的」「活動対象」「価値」などを議論
		10 月	12 日	役員会：ステップ 1 実施報告と提言を承認
		ステップ 2		
	29 日			① - 2：各部会長と今後の事業活動・組織などを議論
11 月	5 日			役員会：環境・防犯・防災部会の位置づけを議論
	12 日			② - 1：事務局業務の棚卸と組織設計(案)を議論
	25 日			③ - 1：事業部門の組織設計(案)を議論
12 月	9 日			③ - 2：組織設計(案)の全体を見直し・調整
	16 日			役員会：ステップ 2 実施報告と提言を承認
ステップ 3	2022 年			1 月
			13 日	資料送付：会のあり方検討の取り組みを会員向けに発信
			20 日	① - 2：池上まつりにかかる「今後の基本方針」を整理
			30 日	イベント：オンライントークセッション「いけまち談義」へ出演
		2 月	3 日	役員会：池上まつりにかかる「今後の基本方針」を議論
			8 日	① - 3：連携事業部にかかる事業計画を議論
			17 日	① - 4：連携事業部、池上まつり運営部にかかる事業計画を議論
		3 月	3 日	役員会：ステップ 3 実施報告と提言を承認
		まとめ		17 日

Ⅳ 情報公開の推進とコミュニケーションの活性化（参考）

1 趣旨

会のあり方検討は、今後の会の方向性を大きく決定づけるものとなります。そのため、本取り組みの実施においては、会員を含めた幅広いまちの関係者に向け、その過程を公開していくことが重要です。また、会の継続性を担保していくためには、情報公開による透明性の確保やコミュニケーションの活性などによる、組織運営力の向上が不可欠です。

そのため、これらの実現に必要となる ICT 環境を整備し、その活用による課題解決を図ることとしました。

2 具体的取り組み

（1）ICT 環境の整備²

① ハード面

- 会事務局専用のノートパソコン、オンライン会議で必要となる web カメラ等を購入しました。

② ソフト面

- 資料作成等で必要となるオフィスソフトの購入、インターネット回線の契約を行いました。
- また、会運営にかかる資料を保管・共有するため、オンラインストレージの契約を行いました。

（2）ICT 環境を活用した取り組み

① 情報公開の推進

ア）メールアドレスの取得（2021 年 9 月～）

- インターネット上の各種サービスの利用基盤として、「ikemachi146@gmail.com」を取得しました。
- 本メールアドレスを会公式メールとして運用し、各種活動において利用しました。

イ）活動実績のアーカイブ（収蔵）

- 2003 年～2019 年の池上まつり写真（4,585 枚）をインターネット上にアップし、デジタルアーカイブを作成しました。
- これを会ホームページや Facebook にリンクさせ、場所や時間を問わず、誰でも懐かしの写真を閲覧できる環境を整備しました。



ウ）会運営資料の共有

- 会ホームページにおいて、総会資料（2016 年度～2020 年度）をアップしました。これまで、総会時に紙資料で提供していましたが、会運営等における透明性確保のため、改善を図りました。
- また、会のあり方検討に関するページを新たに作成し、議論の経過や各種資料等の共有を行いました。



² 費用の一部は「地域活動におけるデジタル環境等整備支援事業（大田区）」を活用。

エ) SNS を活用した情報発信（2021 年 9 月～）

- Facebook アカウントを取得し、会の活動（ex.あり方検討）や池上地区に関する情報を発信しました（2022 年 3 月末時点：300 いいね / 月平均 7,500 ビュー）。
- タイムリーに池上地区の諸情報を発信することで、インターネット上における池上地区のつながり醸成に寄与しました。



② コミュニケーションの活性化

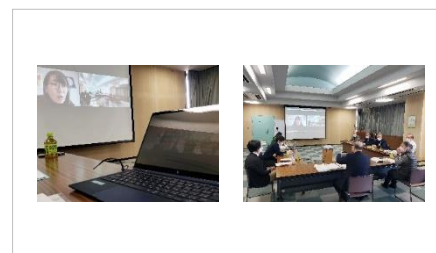
ア) LINE の活用（2021 年 10 月～）

- LINE アカウントを取得し、会運営の連絡調整や資料・スケジュール共有等に活用しました。



イ) オンライン会議の積極活用

- 購入したノートパソコン、広角 web カメラ等を使用し、日常の打合せや役員会において、積極的にオンライン会議（zoom）を実施しました。



(3) ICT 環境の活用に対応した決裁環境の整備

① メインバンクの変更（2021 年 7 月～）

- 当会は任意団体であるため、旧口座ではインターネット上の決裁に、多々制約が生じていました。
- そのため、以下のとおりメインバンクを変更し、新たに運用を開始しました。

旧)	さわやか信用金庫	店番：018	口座番号：1164216
新)	三菱 UFJ 銀行	店番：116	口座番号：0239197

② デビットカードの発行

- 新口座の開設と同時に、同行のデビットカードを発行しました。
- 毎月の通信費や各種オンラインサービス等の支払い手続きにこれを活用することで、効率的な事務処理環境を構築しました。

会活動目的の再設定について

1 なぜ、活動目的を再設定するのか

- ・ 活動の仲間を募るためには、当会の活動目的に共感していただくことが重要です。
- ・ そのため、当会は「誰のために?」「何のために?」活動しているかをより明確にするべく、議論を重ねました。

(1)「誰のために?」活動するのか

①「池上が好きな人」をターゲットに活動する

- ・ 今の池上で活動する方々との意見交換では、「池上内」のみならず、「池上外」からの多様な人材が、池上への思いや興味を持ち、まちに関わろうとしていることを認識しました。
- ・ 池上の内外を問わず、こうした「池上が好きな人」の「池上でやりたい」を実現していくことが、新たなまちの力になっていくと考えます。

(2)「何のために?」活動するのか

①「つながり」「コラボレーション」を生み出すため

- ・ まちが住みやすく・魅力的であるためには、地域の土台となる「人のつながり」が最も大切です。そのため、当会は活動を通じて「人のつながりを作り出すこと」に価値を置くことが重要と考えます。
- ・ また、池上の内外を問わず、さまざまな発想・能力を持つ人々との「コラボレーション」が、更なる活動の楽しみ・充実へとつながると考えます。

② 活動を通じて「多様な人材との関わり」を持ちたいから

- ・ 多様性は力になります。活動に際しては、老若男女、さまざまな人々に参加をしていただきたいと考えます。
- ・ そのため、「活動目的に賛同できる人」を募るとともに、参加へのハードルは低く、「会との接点をつくる仕組み」が必要になると考えます。

2 これからの活動目的

- ・ 前述の点を踏まえ、会則第2条（目的）を以下のとおり改めたく考えます。

これまで	まちおこしの会は、池上地区における自分たちのまちが、自分たちの力で、明るく楽しくいきいきとした魅力あるまちとなることを目的とする。そのため、会員の運営により、まちおこし事業を推進するものとする。
------	---

↓

これから	池上地区まちおこしの会は「池上地区の人たち」と「池上を好きな人たち」が、「人とのつながり」を大切に、「池上でやりたいこと」を実現することで、池上がいきいきとした魅力あるまちになることを目的に自分たちの力で活動する。
------	---

- ・ また、この活動目的を実現していくため、会の組織・事業をより最適なものにしていくと考えます。

「池上が好き」度



令和4年度 活動計画について

I 事務局

1 設置目的

- ・ 会の組織運営を担い、円滑な事業遂行に寄与する。

2 役割

① 総務担当 : ア) 円滑な会の運営・活動を図るため、組織全体の調整を行う。

② 財政担当 : ア) 歳入を確保し、財政基盤の安定化を図る。
イ) 歳出を管理し、財政運営の健全化を図る。
ウ) 会が保有する財産を把握し、適正な管理を図る。

③ 広報担当 : ア) 池上地区の情報を発信し、さらなる池上ファンを獲得する。
イ) 会活動を広報し、会の認知度向上を図る。
ウ) 情報公開を推進し、会運営にかかる透明性を確保する。

3 活動計画

- ・ 事務局機能の強化に向け、池上特別出張所からの事務処理引継ぎ、現会員・非会員向けにスタッフ獲得の取り組みを行う（詳細は資料4「事務局機能の強化に向けた取り組みについて」を参照）。

II 連携事業部

1 設置目的

- ・ 池上ファン（内外を問わず）とのつながりを生み出し、まちのエネルギーへと変えていく。

2 役割

① 渉外担当 : ア) 地域の「内と外」をつなぎ、「外から内へ」人材の流れを生み出す¹。

② 事業グループ² : ア) 池上ファン（内外問わず）との接点を生み出し、活動参加への入口づくりを行う。
イ) 多様な人材との連携（コラボレーション）を通じ、「池上でやりたい」を実現していく。

¹ 具体的には「池上ファンとのコミュニケーション（会の入口に来た人との関係性づくり）」「池上内外のまちづくり人材へのアプローチ（まちづくり界隈でホットな方に個別接触）」などを想定している。

² 事業グループ内には事業ごとの担当（〇〇担当）を置く。また、事業運営（〇〇担当）に複数名が関与する場合、「リーダー」を1名指名する。

3 活動計画

(1) 試行的事業の実施

- ・ 後述するとおり、令和4年度の池上まつりは中止を想定している。
- ・ 一方、2年間にわたり池上まつりを中止したことで、活動の停滞を惜しむ声も多数寄せられている。
- ・ そのため、会のあり方検討では、さまざまな地域活動の事例を参照し、コロナ禍においても実施可能な地域イベントの形を模索するべく議論を重ねた。
- ・ そこで、令和4年度は以下の基本方針に基づき、新たな事業を試行的に実施することを提案する。

- 基本方針 -

① 考え方	: With コロナ / 非一極集中 / 池上ファンとの連携・交流
② 会場	: 池上地区全体 (11 町会)
③ 日程	: 地域外からの来客を見込める時期 / 複数日
④ 企画内容	: 公募 (まちの中から、やりたいことを出してもらう) + ステージ企画
⑤ 会の役割	: プロデューサー (ex.テーマ設定、企画公募、広報、ブランド化)
⑥ 資金	: 企画提案者の独立採算 / 会は広報関係への支出を想定

- 進行イメージ (例) -

項目 \ 時期	第一期(4-6月)	第二期(7-9月)	第三期(10-12月)	第四期(1月-3月)
1 事前調整	内部調整			
2 企画勉強会		ゲストを呼んで公開実施(月1回)		
3 開催準備		企画公募	準備会議(月1回)	
4 実施				実施

※ 企画勉強会について

- ・ 池上ファンとの接点作りにおいては、何よりもまず、会への接点・入口が必要となる。
- ・ そのため、企画勉強会を定期的の実施することで「巻き込みの流れ」を作り、これを踏まえて開催準備を進めていく。

(2) 三部会事業の実施

- ・ コロナの影響がない事業については、継続実施とする (ex.青色パトロール、緑づくり)。
- ・ その他、感染症対策を特に要する事業については、実施未定とする (ex.梅まつり、スポゴミ)。

Ⅲ 池上まつり運営部

1 設置目的

- ・ 池上まつりの企画・実施を通じて「人のつながり」を更に広げ、池上地区の発展に寄与する³。

2 活動計画

(1) 令和4年度池上まつりの中止

- ・ 前述の「基本方針」にもとづき、令和4年度池上まつりを実施する案について、第8回役員会（令和4年2月3日）において議論した。
- ・ 役員会では「“まつり”と言うからには、熱気を帯びた盛り上がりが必要」などの意見が出され、従来方式の池上まつりを支持する声が多数であった。
- ・ これを踏まえて池上まつりの実施可否を検討することとなり、第9回役員会（令和4年3月3日）において、現下の状況に鑑み中止とする旨、本臨時総会（令和4年3月17日）へ諮ることを決定した。

(2) 令和5年度池上まつり開催に向けた再設計活動

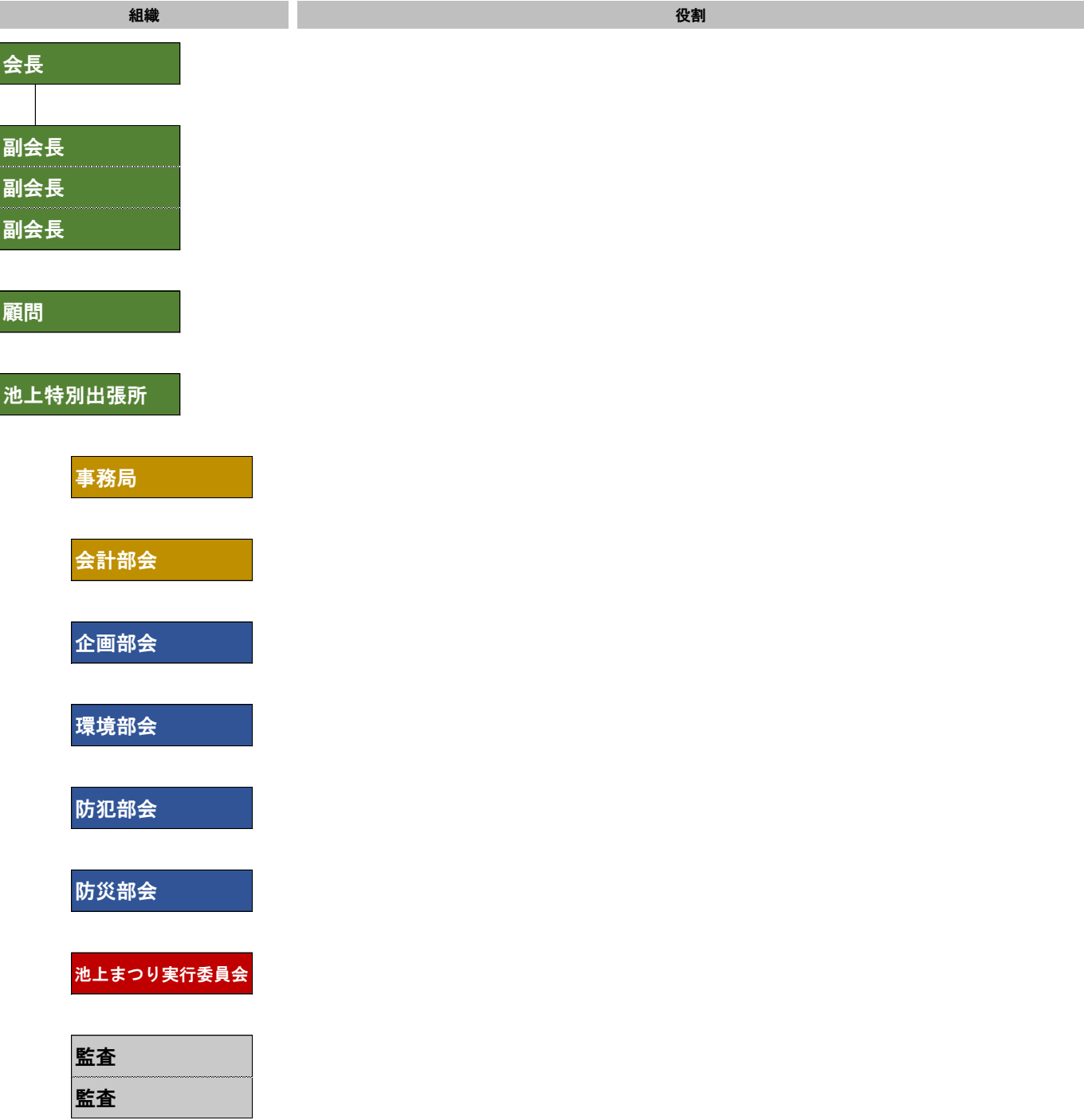
- ・ 池上まつりについては、例年8月末の実施を見据え、年度始め（4月）から開催準備を行っている。
- ・ これまで本事業は、地域内のコミュニティづくりに成果を残してきた一方、準備期間の短さや企画参加者の限定性など、解決すべき課題も多々認識されている。
- ・ 池上まつりに関わる全ての方々が、より充実感を持って活動いただくことは、本事業の持続可能性を担保するとともに、次世代に対して、まちのコミュニティを受け継いでいくことにも繋がる。
- ・ そのため、令和5年度池上まつりの開催を見据え、これにかかる再設計活動を提案する。

³ 池上まつりは「実行委員会形式」で行われてきた。そのため、通年で池上まつりに関わる諸案件を処理する部門として「池上まつり運営部」を置き、実行委員会の立ち上げをもって、これに実務的な活動をシフトさせる体制とした。

IV 新組織図



(参考：現組織図)



事務局機能の強化に向けた取り組みについて

1 背景

- ・ 当会は任意団体であり、その運営および事業は、自律的な活動をもって達成されることが必要です。設立時から掲げる活動目的「自分たちの力（協力）で～」という表現は、これを意図して定めたものです。
- ・ 一方、会の運営にかかる事務処理（裏面参照）は、池上特別出張所へお願いする場面が多く、長年、会の事務局機能は、池上特別出張所が担う体制となっていました。
- ・ 当会設立時と比べ、池上でまちづくりに取り組む任意団体も増加し、こうした団体との公平性が、より問われています。

- 会則における事務局規程 -

2003 年度	第 14 条	まちおこしの会の事務局を池上特別出張所に置く。
2004 年度	第 14 条	まちおこしの会の事務局を <u>当分の間</u> 、池上特別出張所に置く。
2007 年度	第 12 条	池上特別出張所は、役員会に出席するものとする。
	第 15 条	まちおこしの会の庶務は、 <u>当分の間</u> 池上特別出張所が行う。
2008 年度	第 19 条	会の庶務を処理するため、大田区池上一丁目 29 番 6 号大田区池上特別出張所に事務局を行う。 ※ 旧第 15 条（ <u>当分の間</u> ）を併せて削除
2021 年度	第 17 条	池上特別出張所長は、役員会に出席するものとする。
	第 19 条	会の庶務を処理するため、大田区池上一丁目 29 番 6 号大田区池上特別出張所に事務局を置く。

- ・ こうした背景から、会のあり方検討では「今後の事業活動するためには、土台となる事務局機能の強化が不可欠」と結論づけ、以下のポイントを整理しました。

- 事務局機能強化のポイント -

① 事務局業務の可視化	・・・	裏方である事務局の仕事を可視化し、必要な役割を定義する。
② 接点の場づくり	・・・	新たな人材と出会うため、きっかけ作りの場を定期的に持つ。
③ 活動目的への賛同	・・・	活動目的に賛同できる人を募り、自発的な参画を目指す。
④ 負担感のない参画	・・・	業務を細分化する。また、時間・場所の制約を受けない参画の仕組みを作る。

2 今後の取り組み

（１）出張所からの事務処理引継ぎ

- ・ 会のあり方検討において、会の運営にかかる事務処理（裏面参照）を可視化することができました。今後は出張所の支援をいただきながら、具体的な事務処理の進め方を整理していきます。

（２）現会員に向けた取り組み

- ・ 事務局業務を一緒に担っていただける方を募集します。裏面の業務一覧をご覧ください、ぜひお力を貸していただける方は、事務局長（國廣）までお声がけください。
- ・ 業務の一部分だけ、お力をいただく形も大歓迎です。また、平日や日中のお時間を割くことが難しい方は、時間・場所の制限を受けない形（ex.メール・LINE 利用可、資料作成や SNS の更新など）で参画いただくことも可能です。

(3) 非会員に向けた取り組み

- 時代の流れとともに、新たなスキルが地域活動でも求められるようになりました。新たな人材を確保するためには、活動目的に賛同いただくことが重要であり、その入口として、当会との接点を作る機会が必要です。そのため、定期的な接点づくりの活動を通じ、新たな人材獲得に向けた取り組みを行います。

3 令和4年度 事務局業務 (○=メイン / △=補佐)

業務			会事務局	新人材	出張所
1 会議運営	(1) 事前準備	① 議題設定	○		△
		② スケジュール調整・開催連絡	○		△
		③ 資料作成	○		△
		④ 関係者との事前調整	○		△
		⑤ 資料印刷	○		△
	(2) 当日対応	① 会場設営・片づけ	○		△
		② 出席（資料説明含む）	○		△
	(3) 終了後対応	① 議事録作成	○		△
		② 欠席者へのフォロー	○		△
		③ 実施結果の発信	○		△
2 会員対応	(1) 会員管理	① 入会対応	○		
		② 退会対応	○		
		③ 名簿管理	○		
	(2) 日常的な対応	① 問い合わせ処理	○		
		② 会員向け連絡	○		
3 広報対応	(1) ホームページ更新	① 契約		○	△
		② コンテンツ作成		○	△
	(2) Facebook更新	① アカウント管理		○	△
		② コンテンツ作成		○	△
		③ コメント返し等		○	△
		④ フィルタリング		○	△
	(3) メール対応			○	△
4 財政運用	(1) 会費対応	① 納入案内	○		
		② 領収書作成	○		
		③ 納入対応	○		
		④ 未納入者の督促・管理	○		
	(2) 歳出入管理	① 領収書整理	○		
		② 出納簿記入	○		
		③ 会計資料作成	○		
		④ 現金管理	○		
	(3) 補助金対応	① 申請書作成	○		△
		② 事業管理	○		△
		③ 精算処理	○		△
5 物品管理	(1) 消耗品等の購入		○		△
	(2) 倉庫の管理		○		△
	(3) 池上みやげの管理		○		△
6 資料等の整理・管理	(1) 活動記録の整理		○		△
	(2) 過去資料・データ管理		○		△
7 ICTの管理・運用	(1) 端末・回線等の管理			○	△
	(2) 各種webアカウント管理			○	△
	(3) googleサービスの運用			○	△
	(4) ICTツールの活用フォロー			○	△
8 会運営の企画			○		△